

## 2013年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として、初等部・中学部・高等部が、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施する制度を構築しております。

この度、中学部の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されたので、ホームページ上で公表いたします。

2013年度は、「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「保護者との連携」「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を評価項目に設定し、評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を聞くことによって客観性を確保しました。今年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた具体的方策を示し、自己点検・評価としました。また、初等部、高等部、大学の責任者に、ありのままの中学部の教育を知っていただきました。そこでのご意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は学校評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

次頁以降に2013年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを記します。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

2014年3月28日

関西学院中学部  
部長 安田 栄三

## 学校評価シート

### 【教育課程・学習指導】

#### 現状の説明

2011年度から段階的に教育課程の変更を行い、土曜講座、選択講座を廃し、全学年で週34時間の必修授業を実施するという、最終的な形となった。また、学力に不安のある生徒も見られ、従来は教科の自発的裁量でおこなっていた補習を数学、英語で全学年実施した。ただし、人的・財政的制約で十分には実施できていない。さらに国語等も含め、数英以外の教科でも補習等の措置が必要であるが、実施できていない。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

従来同様、生徒・保護者ともに、学校への満足度は全般的に高い。また、教育内容や授業全般への評価も高い。

補習等の学力保障的措置が講じられていることに対する意識は、生徒への調査では昨年より若干高くなっている。これは数英での全学年への定期的実施によるものである。ただし、保護者については昨年と変わらない。生徒を通じて情報を得るためのタイムラグによるものである。

学力向上の実感を持っていない生徒・保護者が少なからずいることも昨年同様であるが、学力推移調査を3年間通じて経験している生徒がまだおらず、これが原因の一つである。次年度3年生で初めて1年時からの推移が確認できるので、状況は変化すると思われる。

高等部進学についても、外部高校進学についても情報量が少なく、評価も従来から低いが、進路や進学先を自ら選び取ることが現実的に少ない中学部の状況が大きな要因である。

#### 改善の具体的方策

基礎学力の定着、発展的課題への取り組み双方を実現するため、学習への動機付けをより強化する。そのためにも学力推移調査の結果を活用し、加えて定期試験、小試験等の結果も、成績評価だけでなく、生徒自身の学習姿勢確立の指針として更に活用していく。

基礎学力定着のための補習も、人的・財政的リソースを確保しつつ、可能な限り拡充していく。

進路・進学情報の提供に関して、中学部だけでなく、高等部にも協力を求め、より積極的に情報提供の機会を設ける。また、可能であれば高等部の授業・行事の見学も実施したい。加えて他校進学者・他の進路を選択する者への進路指導の体制も拡充する。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 基礎学力の定着、発展的課題への取り組み、学力推移調査などに積極的に取り組み、一定の成果を上げている。土曜講座、選択講座を廃し、全学年で週34時間の必修授業を実施するという新しい教育課程に対応するかたちで学力向上への取り組みを進めている。英数での補習授業の実施など学力保証の取り組みは、教員に関する人的条件や財政的条件が必ず満足できる状況でない中、評価できる試みである。高等部への進学・進路情報の提供という点では少し課題も抱えるが、今後とも高等部との連携を期待する。
- 男子学年と共学学年、そして4クラス編成と6クラス編成が交じり合う最後の年度となった。今年度、数学・英語において全学年補習を実施したことは大きく評価できる。初等部からの入学生、また入試状況の変化からもたらされる学力間格差の問題は、従来にはあまり目立たなかった新たな課題であると考えられる。ここに男女による脳発達・能力発達の性差も加えて、今後学力不振者に対する補習等の取り組みは増々重要度が高くなってくると考えられる。
- 高等部の情報が少ないとのアンケート結果は、次年度から実施される中高交流人事がこれを改善する大きな力となってほしい。また、高中部長室委員会や高中部教学協議会、高中部将来構想委員会で話された内容等を、会議に出席していない他の教員へもしっかりと伝えていくことが大切であるとする。「情報の共有」がひとつのキーワードとなると思う。
- 生徒の実態把握を基にした学習指導の展開は、納得性の高いものである。つまずきに対し、補習などきめの細かい対応がなされていることにより、どの子にも見守られ感が生まれ安心、安定とつながっているのだろう。
- さらに、英語、数学以外の教科が加われば質が高まる。
- 女子生徒を加えた課外活動のバランスよい充実が課題となる。

2013年度学校評価

## 学校評価シート

### 【生徒指導】

#### 現状の説明

挨拶、時間厳守、身だしなみなど基本的社会マナーについては、重点的に指導している。美化については、風紀美化委員会を中心に、当番制によりホームルーム教室とその周辺を日々清掃し、3学期末には大掃除を実施している。また、「地域奉仕活動」として登下校路の清掃活動を定期的に行っている。今年度はポスター委員会を発足させ、校内に美化意識向上のための具体的な呼びかけを掲示した。また、生徒会活動およびHR活動を中心に自主自律精神の育成を目指している。さらに、生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

基本的社会マナーについて、教員・生徒・保護者ともに肯定的回答の割合が大変高く、教員・生徒・保護者ともにポイントが少しずつ上がっている。さらに教員のアンケートでは「整理整頓や環境美化に努めさせている」の問いで毎年肯定的回答がやや低く課題となっているが、今年度は肯定的回答が69.0%と昨年から7ポイント上がっている。これは、委員会活動を中心に取り組みを進めた成果だと考えられる。ただ、教室の美化意識の低さは継続して教員全体で取り組みを強化すべき課題であることに変わりはない。

生徒の問題行動に対しての対応について生徒の肯定的回答のポイントが上がっているのに対し保護者の方は昨年より若干下がり一昨年とほぼ同じ数値となった。当該学年団と生徒指導部を中心に教員同士および生徒・保護者との緊密なコミュニケーションを図ってきたつもりであるが、保護者への更なる丁寧な対応が求められていると考えられる。しかし、女子の保護者だけを見ると、昨年肯定的回答が66.1%と男子の保護者に比べ大きく下回っていたが、今年度は81.4%と改善が見られた。これは指導部と学年団で女子の指導について課題を洗い出し、対応してきた結果が表れたものと思われる。

#### 改善の具体的方策

美化意識については、昨年度より生徒会に風紀美化委員会を立ち上げ、風紀美化部長を中心に活動を行ってきた。また今年度よりポスター委員会を発足させ、校内に美化意識向上のため具体的な呼びかけを掲示した。少しずつ成果を見ている今の活動をさらに充実させていく。

問題行動への対応については、保護者に対し今まで以上に丁寧な説明を行い、生徒に対して更にきめ細かい指導を行っていく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 挨拶、時間厳守、身だしなみなどの基本的社会マナー、教室を中心とした美化など、具体的な目標を掲げ実践を進め、成果を大いに上げている。ただし、基本的社会マナーに比べると、中学生ということもあり美化に関しては少し意識が低い生徒もおり、委員会を中心として、毎年向上を図っている。なお、共学化の学年進行の中で、女子生徒の問題行動への対処の方法やあり方が課題であると昨年度少し認識されていたが、今年度は一定の課題の解決がなされ、成果が上がっている。
- 生徒会に自治組織を新たに立ち上げた結果、「整理・整頓や環境美化に努めさせている。」のアンケート結果が上がったことは、大いに評価できる。また、女子が入学して共学化となった2年目で様々な課題を洗い出し、対応してきたことが、保護者の肯定的回答が大きく上昇したことにつながったと考える。次年度はすべての学年が男女共学となり、新しい中学部の完成年度を迎えることになる。ちょうど学院創立 125 周年の記念の年に、全学年そろって同じ歩みができることを活かして、学校生活を導いてほしいと願う。
- 男女共学から2年、調整と創造の日々であろう。厳しく温かなる指導が多くの基礎的社会マナーを育んでいる。
- 風紀美化委員会の立ち上げも意義深く、生徒に求める「自主自律の精神」が心の成長とともに大きな行動指標となり得ている。
- 地域に向けての奉仕活動など、社会とつながる中学部の「見える化」は、今後ますます重要となる。

2013 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【保健管理】

#### 現状の説明

生徒の健康診断は、年1回5月に外部クリニックへ委託し学校内で実施し、要再検者への受診勧奨を行い疾病の早期発見、早期治療に努めている。

心身の健康相談の場については、社会の変化に伴う生徒らを取り巻く様々な課題に対する支援が必要となり、2011年度からカウンセラーを高中部で2名に増員し、保護者及び生徒の心理相談にあたっている。

安全管理においては、生徒の怪我や急病の際、養護教諭が対応し、必要に応じて保護者と連絡、相談の後、病院搬送又は自宅近医の受診を勧奨している。また、学校管理下における心肺停止等の緊急時に備え、対応マニュアルを作成し教師会で周知している。

保健室は2012年度からの共学化・定員増により中学部生の来室者は昨年度比2.64倍となった。特に心の健康問題を体の症状として表現する生徒たちの来室が増えており、養護教諭資格のある職員1名を増員し、日々対応、相談活動に取り組んでいる。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

2011年度の結果と比較すると養護教諭・カウンセラー・教員間での情報交換・連携、生徒の健康状態把握については、教員の評価がやや下がり、また、怪我・急病発生時の対応について、保護者の評価が若干低くなっているものの生徒の評価は上がっており、全体的に評価は高くなっている。保健室の人員増員により、より細やかに生徒への対応できるようになったことが評価されたと考えられる。

心や体の健康についての相談場所があることを「知っている」と答えた生徒は2011年度と比較し18.1%増加していたが、比率が63.8%とまだ十分とは言えない状況である。

#### 改善の具体的方策

養護教諭・カウンセラー・教員間での情報交換・連携について、教師会の場を用いて、学校全体に関わる必要な情報（感染症の罹患状況、事故やケガの発生状況等）を発信していく。

生徒個々の心の健康問題については、担任及び学年主任と連携しながら、ともに生徒を支えていけるよう取り組んでいく。

怪我・急病発生時の対応については、生徒の怪我、急病が発生した時にはその病状と対応について保護者へ連絡し相談しているが、今後も連絡を密にとりつつ、理解と協力が得られるよう保護者とのつながりを大切にしていきたい。

生徒が心や体の健康についての相談場所があることを知っている比率がまだ十分でないことについては、今後も保健だより、壁面掲示物を用いて生徒、保護者へ発信を続けていきたい。また保健室が生徒たちにとって相

話しやすい場所となるような雰囲気作りに努めていく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 生徒の心や体の健康について、法的に定められた健康診断の実施は当然のことではあるが、心身の健康相談の場を設け、カウンセラーを配置し、充実に努めている。安全管理に関しても養護教諭が中心となり、連絡体制を構築しており、一定の評価を保護者からも得ている。今日の中学生の心身の健康問題への関心は高く、生徒一人ひとりのニーズに応えることができるよう、保健管理体制のいっそうの充実が望まれる。
- 学院の理解を得て保健室に職員 1 名を増員できたことは非常に大きい。ただ、定員の増加、女子生徒の増加等で来室者も増え、決して対応が楽になったとはいえない。しかし、従来の中学部、高等部保健室がそれぞれ別のところがあり、1人勤務体制であったことを考えると、大きな進歩であったと考える。チームとして色々な相談や情報交換をしながら、男女共学化完成年度を迎えたい。ただし、高等部の共学化までの将来を考えると、益々の定員増、女子生徒の増加はしばらく続いていく。保健室の将来像を見据えて、課題を整理し、対応策を練るなど、一つずつ解決していく必要がある。
- 心身の健やかさ、なかでも心の安定は難しいものであろう。身体が変化し、心が大きく揺れ動くこの時期、IT社会が急激に広がる中、バーチャルの世界を生きる子どもの息苦しさは想像に難くない。
- 他者との関係性を日常生活でどのように体験させ、課題をどう乗り越えさせるのか、保護者との連携・協働がさらに重要となる。実感を伴った日々の積み上げを、希望へのヒントとしたい。

2013 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【保護者との連携】

#### 現状の説明

幹事長を中心に、五役（幹事長・副幹事長・庶務・会計・会計監査）・常任幹事・地区幹事（8地区からなりクラス幹事を兼ねる）で構成されるPTA組織があり、上級生幹事は前年度11月に行われる幹事選挙を通して選出されている。新入生の幹事については、4月のPTAクラス集会にて、クラス毎に選出され、クラス、地区幹事として活動に参加している。活動内容の中心は、全校行事のサポートとして体育大会、文化祭でのお弁当等の販売や地区懇親会の開催などである。これらの準備のため、年5回の常任幹事会、幹事会を開催しており、五役会も適宜開催している。

その他にも、PTA聖書を学ぶ会、PTAだよりの活動など独自の活動を展開している。

また、年4回開催されるPTA集会（全校、学年、クラス）や担任面談、クラス・クラブ懇談会等を通じて、様々な情報を交換しながら保護者と担任やクラブ顧問との連携を深めている。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

学校行事などでの連携、幹事会等の会議の開催、クラス担任との面談やクラス懇談会については、保護者、教員ともに概ね高い評価を得ている。これは、幹事会やPTA集会、クラス・クラブ懇談会等が頻繁に行われ、行事や集会を通して互いの繋がりが密に保てているためだと考えられる。

一方、教育内容に関して保護者との意見交換が行われているかについての教員へのアンケートでは、低い評価にとどまった。教育について個々人の学習の問題に対しての意見交換は個人懇談などの場で行っているが、中学部の教育内容全体の現状を直接保護者に伝えたり、意見を聞いたりする機会が少ないことが原因であると考えられる。

#### 改善の具体的方策

保護者との連携については、これまで通り、保護者と多くの時間を共有しながら、ともに考え、意見を出し合えるような取り組みを継続して行っていく。

教育内容に関する意見交換については、前回に引き続きの結果であったので、担任面談などで得られた保護者からの要望を会議などを通して、学校全体として共有する機会を増やし、PTA集会などで部長、副部長、教務部を中心に情報を発信することや保護者がより意見を出しやすい雰囲気と体制作りを考えていく。

授業参観日の設定、あるいはオープンスクールの実施などについて具体的に検討する必要がある。



### 第三者評価／学校関係者評価

- 保護者との連携に関しては、P T A組織を中心に組み込まれている活動は全体的に、保護者、教員から高く評価されており、P T A聖書を学ぶ会、P T Aだよりの活動など、各種の活動の高い充実度が具体的にあらわれている。ただ、組織的な活動のレベルではなく、保護者個々との対応のレベルにおいては、生徒にかかわるさまざまな教育課題について、保護者との意見交換の必要性が教員、保護者に認識されており、そうした場づくりも課題となっている。
- 小学校と違って教科担当制となった中学校においては、教育内容について保護者と意見交換することは簡単に行えることではない。それぞれの教科でそれを行うことは中々困難であると考えられる。しかし、全体のシラバスや授業計画等を公表するなどの方策を講じるなど検討していただきたい。ただし、授業の難易度等、個人によって意見は様々に出てくることなど考えると、まずは教育のプロである教員が、指針をしっかりと示すことが重要であろう。
- 公立校のような、地域を持ち得ない特殊性に苦心があろう。その分、保護者との連携は重要であり大切にしなければならないことである。授業参観、その後の懇談会など学校を内に向けて「開く」ことは、より強い結び付きとなる。
- P T Aの意見・要望を聴き協働を求める中で、学校の主体性をどう捉え展開を図るのか、バランスが求められる。

2013年度学校評価

## 学校評価シート

### 【キリスト教主義教育の実践】

#### 現状の説明

キリスト教主義教育は全学的な教育プログラムとして展開している。共学化2年目を迎え、教職員、生徒、保護者がその取り組みをどのように継承し、発展的に展開できるかという課題を持ち、2013年度が始まった。礼拝は教員が講話を担当するとともに、学外からも数多く（2013年度は26名）の講師を迎えた。また、生徒たちが主体的に企画、運営する生徒礼拝や早天礼拝も継続して行われた。保護者に対して開かれている「PTA聖書を学ぶ会」は毎月の定例会とともに特別な集いも企画した。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

全校礼拝での静粛さや歌声の大きさは今年度も変わりなく継承され、クラス礼拝や学年礼拝も2年目となり定着してきている。生徒の「質問 18. 礼拝では学内外の様々な人の話を聴くことができる」の積極的評価の割合は2011年度は92.3%、2012年度は91.8%、2013年度は96.1%と今年度は高い数字を示し、ほとんどの生徒が礼拝で多彩な講話を聴くことができたという実感を持っている。毎日の礼拝で人からの話を聴く機会が中学部におけるキリスト教主義教育の根幹となっている。

土曜日の10分間の礼拝は生徒の宗教委員による司会、聖書朗読、祈りというプログラムの形を取り入れているが、緊張とともに慣れない式の進行ということもあり、より丁寧な事前の指導が必要である。早天礼拝は毎週水曜の朝に行われ、生徒によって滞りなく司会と奏樂の奉仕がなされた。

「PTA聖書を学ぶ会」の通常例会の出席者数の平均は2011年度は43名、2012年度は61名、そして2013年度は79名と年々増加している。共学化する前に比べて約2倍の出席者数になっていることは特記しておきたい。それに比べ、クリスマス等の特別なつどいの出席者数の平均は2011年度は106名、2012年度は113名、2013年度は109名とほとんど変化がない。生徒数の増加に対応して出席者数が増加していないということは、昨年度と同様に保護者がイベント的な形の集会ではなく、じっくりとキリスト教主義教育を直接的に学ぶ機会を得ようとしている姿勢の表れだと判断できるだろう。関連したアンケート項目としては「19. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている」の1項目のみであるが、特に注目しておきたいのは「強くそう思う」の回答が2011年度は54.7%、2012年度は47.1%、2013年度は54.9%と今年度は高い割合となっていることである。

## 改善の具体的方策

今後もキリスト教主義教育の実践の根幹である礼拝に対して、静粛さと歌声の大きさの伝統を重んじつつも、できるだけ多方面からの講師をお招きし、その内容を充実させていく。教員間において、礼拝以外の形でキリスト教主義教育の理念を共有できるプログラムとして何ができるのかを考えたい。保護者からの要望に応え、P T A聖書を学ぶ会などを通して、中学部のキリスト教主義教育への理解を深める機会を充実させる。

## 第三者評価／学校関係者評価

- さまざまなキリスト教主義教育に関わる教育プログラムが展開されている。生徒と教職員が出席する「礼拝」や保護者が出席する「P T A聖書を学ぶ会」に加えて、特色ある活動が展開されており、アンケート調査の結果から各活動の成果の高さを評価できる。なお、活動に求める質には、生徒、保護者、教員に若干の差はあるが、いずれも高く評価できる。
- 非常に高い評価を得ていることは、現場の取り組みとともに素晴らしいことである。女子生徒が関わっても大きな声で讃美歌を歌う伝統が引き継がれていることは、これからも大切にしていきたい。P T A聖書を学ぶ会への参加者も年度ごとに増加していることは、学校の教育の柱を知ってもらう上でも大変評価できる。
- 生徒への教会出席の奨励は、教会側の問題もあると考えられるが、日曜日のクラブ活動の配慮など、教会に出席しやすい環境づくりも考えていく必要があると考える。
- 昨年度より実施された新プログラムの成果は数字に表れつつある。アンケート結果に、手ごたえが感じられる。
- 内部進学者と外部進学生徒の温度差は、日々の教育活動により融合がみられるであろう。生徒主体の活動は広く発信の役割を担い、中学部の目指す自主独立の子ども像につながる。

2013 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【特色ある教育の実践】

#### 現状の説明

中学部は今年度で共学化 2 年目を迎えたが、共学化後も、「キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術の五つを教育の五本柱としながら、日々の礼拝や授業、課外活動などを通じて、特色のある教育の実践を目指す」という方向性を堅持してきた。

学校の建学の精神である「キリスト教主義による人間教育」においては、学校生活において、単に礼拝を守り、授業を通して「聖書」を学ぶということだけでなく、学校生活の多くの場面で「祈り」、また奉仕の心を大切にす、ということを重視しながら教育を展開してきた。

また、中学部の誇る「読書」では、本を読むことにとどまらず、学習・研究の方法や技術を学ばせ、設備の整った図書館を背景に生徒の読書生活を幅広く伸長させている。

英語・体育・芸術では授業を重視することはもちろんのこと、今年度も、スピーチコンテスト、体育大会、球技大会、マラソン大会、文化祭、合唱コンクールなど、多くの発表の機会を設けた。

また中学部はキャンプを通じての「人間教育」にも力を入れているが、毎年 2 年生全員が参加する青島キャンプ（無人島でのキャンプ）には、今年度初めて女子生徒も参加した。キャンプでは女子生徒だけを対象としたプログラムを設定せず、これまで長きにわたって中学部が培ってきたキャンププログラムを女子生徒にも実施したが、全体的には大きな問題なく意義あるキャンプ生活を送ることができた。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

今年度もすべての項目に関して概ね高い評価を得た。

英語教育関係では、昨年までの課題になっていた国際理解関係の項目でも評価が上がった。具体的には肯定的評価が保護者においては昨年度の 66.6%から 72.7%、生徒においては 53.4%から 57.5%と増えている。これは海外での語学研修プログラムの復活にその一因があると思われる。ただ、受け入れ側の要望で、研修に参加できたのが 9 名だけという少人数であり、また参加対象学年の 3 年生にしか詳しい情報がいきわたっていないため、特に生徒においては評価の上昇率がそれほど高くなかった。

もう一つの課題であったキャンプや体験学習に対する評価であるが、今年度は初めて女子生徒が青島キャンプに参加した年であり、その評価が目ざされる場所であったが、結果的にはよき評価が得られた。具体的には肯定的評価が、保護者においてはさほど変化はなかったものの、生徒においては昨年度の 92.9%から 93.8%となっており、特に女子生徒だけを見ても、同じく 84.8%から 87.2%となっている。また、生徒の肯定的評価の内訳を見ても、「強くそう思う」が 55.5%から 59.2%と増えており、青島キャンプにはまだ女子生徒の半分の 2 年生だけしか参加していないこと

も勘案すると、この数字は評価できるものと言える。このことは、これまで行ってきたキャンプが女子生徒にも受け入れられているということの表れだと考えられる。

### 改善の具体的方策

英語圏の海外研修については、来年度に向けて研修地を確定し、そこでの実施に向け、準備の最終段階に入っている。中学部にとってふさわしい研修地の安定的確保ならびにプログラムの確立が来年度へ向けての課題である。

キャンプに関しては、来年度は女子の参加が2年目となる。大きなプログラムは変えず、細かい部分で男女合同のキャンプにさらにふさわしい運営を目指す。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 共学後も「キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術」の五つを教育の五本柱として位置づけて、重点を置き、各種の活動に取り組み成果を上げている。特に今年度は、英語の海外研修も取り入れ（復活し）国際理解関連の項目で高い評価を得ている。伝統ある読書教育をはじめ、女子生徒が初めて参加したキャンプや体験活動などのプログラムも成功を収め、中学部の特色ある活動がますます充実していく方向に向かっている。
- 初めての女子生徒の青島キャンプが好評価を得られたことに、現場の教員、リーダー等のスタッフのこれまで以上の努力が感じられ、いいスタートができたのは本当に喜ばしい。今まで中学部が大切に培ってきたことが女子にも受け入れられたことはとても大きい。
- また、海外での語学研修プログラムの復活は、英語学習だけでなく、今学院が目指す「Mastery for Service」を体現する世界市民の育成に向けて良い機会となったと思う。参加人数が少なかったことを上げているが、今後、高等部、大学へとつながっている中で経験するチャンスはたくさんあり、中学の段階では無理のない範囲で継続させていくことが重要であると考えます。
- 時代を超えて変わらないもの、五本柱の意義と実践が評価された結果であろう。高い支持である。
- 保護者が子どもに付けてやりたい力が中学部にある証でもある。時代の求めに応じ内容を吟味し、鮮度ある充実を図られたい。

2013 年度学校評価

2013年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
中学部全般				1. 生徒は楽しんで学校に行っている。	1. 学校に行くのが楽しい。
				2. 中学部の教育に満足している。	2. 中学部の教育に満足している。
教育課程・学習指導	(1) 教育課程についての教員間の共通理解と連携	教員による教育課程の全体像の理解	1. 教員は、教育課程の全体を理解している。	3. 学校が提供しているカリキュラムは適切である。	
	(2) 児童生徒の学力・体力の的確な把握	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握	2. 教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。	4. 学校は、生徒の学力を適正に評価している。	3. 学校は、自分の学力を正しくつかんでくれている。
		教員による学力や体力評価についての理解向上		5. 学校は、生徒の体力（運動能力）を適正に評価している。	4. 学校は、自分の体力（運動能力）を正しくつかんでくれている。
	(3) 各教科の特性に応じた授業の工夫	教員自身による担当教科の特性の理解	3. 教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。		
		より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究	4. 教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。		5. 自分の学力は伸びていると感じる。
		授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫	5. 教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。		6. 授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。
	(4) 個々のニーズや興味関心に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開	6. 教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。		
		補習など特別な学習機会の提供	7. 学校は、必要に応じて補習など特別な学習機会を提供している。	6. 学校は、補習など特別な学習機会を適切に提供している。	7. 勉強でつまずいた時、補習などの機会がある。
		中学部と高等部との連携	8. 中学部は、高等部と適切に連携をはかっている。	7. 学校は、関西学院高等部に関する情報を適切に提供している。	
	(5) 課外活動の充実	生徒会などの自治活動の充実	9. 学校は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。	8. 学校は、学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	8. 自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。
		クラブ活動など課外活動の充実	10. 中学部は、クラブ活動など課外活動が充実している。	9. 学校は、充実した課外活動（クラブ活動など）を提供している。	9. 課外活動（クラブ活動など）が充実している。
		課外活動が正課（学習）を妨げないことの徹底	11. 学校は、生徒が学業と課外活動を両立できるように配慮している。	10. 学校は、生徒が学業とクラブ活動を両立できるような環境の整備に努めている。	10. 学業とクラブ活動が両立できる環境にある。

2013年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート			
			教職員用	保護者用	生徒用	
生徒指導	(1) 基本的生活習慣の確立	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導	12. 学校は、挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーを生徒に身につけさせている。	11. 学校は、生徒に基本的社会マナー(挨拶、時間厳守、整理整頓、環境美化など)を身につけさせている。	11. 学校は、あいさつ、時間厳守、整理整頓、環境美化などの基本的社会マナーを身につけさせている。	
		整理整頓や環境美化の指導	13. 学校は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。			
	(2) 自主自律の精神の育成	HR(学級活動)における自主自律の精神の育成	14. クラス担任は、学級活動において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。	8. 学校は、学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	8. 自分たちの手でホームルーム、生徒会、自治活動を行っている。	
		学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成				
	(3) 問題行動への対応	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解	15. 生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。	12. 学校は、生徒の問題行動などについて適切に対応している。	12. 学校は、自分たちの行動に問題があれば、適切に対応している。	
		生徒の問題行動の早期発見				
		問題行動に対する適切な指導・訓戒	16. 教員は、生徒の問題行動に対して適切な指導・訓戒・事後ケアを行っている。			
	保健管理	(1) 心身の健康管理	健康診断の定期的な実施と事後措置	17. 学校は、健康診断を定期的を実施し、事後措置を適切に行っている。	13. 学校は、生徒の健康に関する情報を把握し、適切に対応している。	13. 学校は、自分の健康に関する情報を適切につかんでくれている。
			健康状態の把握	18. 学校は、養護教諭・カウンセラー・教員間で情報交換や連携を適切に図り、生徒の健康状態の把握に努めている。		
健康相談			19. 学校は、生徒の心身の健康に関して、生徒や保護者が相談できる場を設けている。		14. 学校には心や体の健康について相談する場がある。	
感染症の予防				15. 学校は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している。		
(2) 怪我・急病発生時の対応		怪我・急病発生時の迅速で適切な対応	20. 学校は、怪我及び急病発生時に迅速で適切な対応をしている。	14. 学校は、怪我及び急病発生時に迅速で適切な対応をしている。	15. 学校は、怪我や体調不良の時に素早く適切な対応をしてくれる。	

2013年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

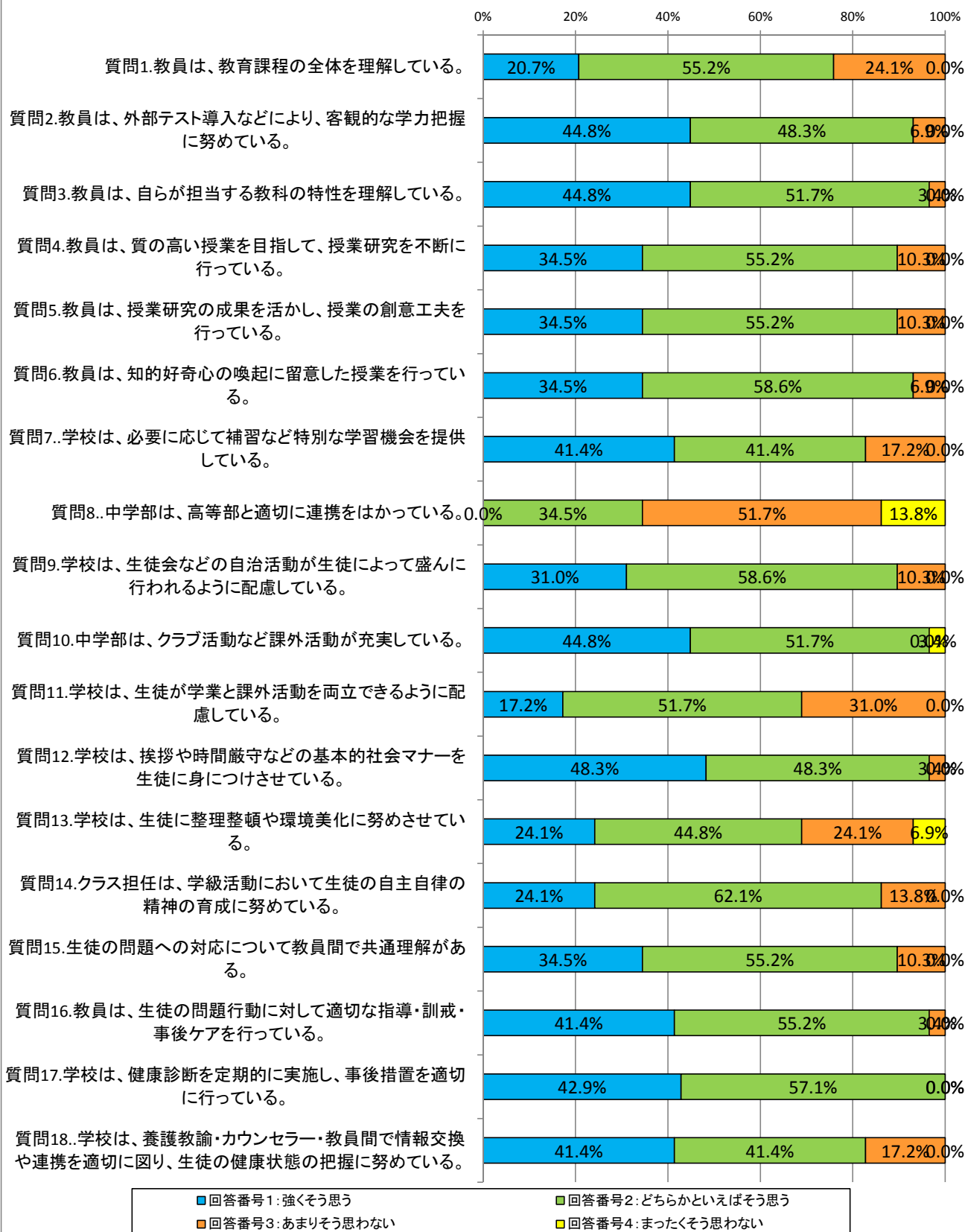
大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
保護者との連携	(1) 学校運営についての保護者 (PTA) との協力状況	PTAと協力した学校行事の運営	21. 学校は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。	16. 学校は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。	
		教育内容に関する保護者との意見交換	22. 学校は、教育内容に関して保護者との意見交換を行っている。		
	(2) 保護者との懇談の実施やPTAとの協議会の運営状況	PTA幹事会等の適切な開催		17. 学校は、PTA幹事会等、PTAとの協議会を適切に開催している。	
		クラス担任と保護者との面談の実施	23. 学校は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。	18. 学校は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。	
		クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施	24. 学校は、クラス・クラブ等の保護者との懇談を必要に応じて適切に行っている。		
キリスト教主義教育の実践	(1) キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有	25. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。		16. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。
		キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動	26. 教員は、キリスト教主義による人間理解を基に日々の教育活動を適切に行っている。		
	(2) キリスト教主義教育の推進	学校の重要な柱としての礼拝の遵守	27. 学校は、礼拝を重要な柱として守っている。	19. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている。	16. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。
		生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施	28. 学校は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。		17. キリスト教に関する理解が深まっている。
		生徒に対する教会出席の奨励	29. 学校は、生徒に教会出席を奨励している。		
	(3) キリスト教関係諸団体との連携	教会などキリスト教関係諸団体からの礼拝奨励者の招聘			18. 礼拝では学内外の様々な人の話を聴くことができる。



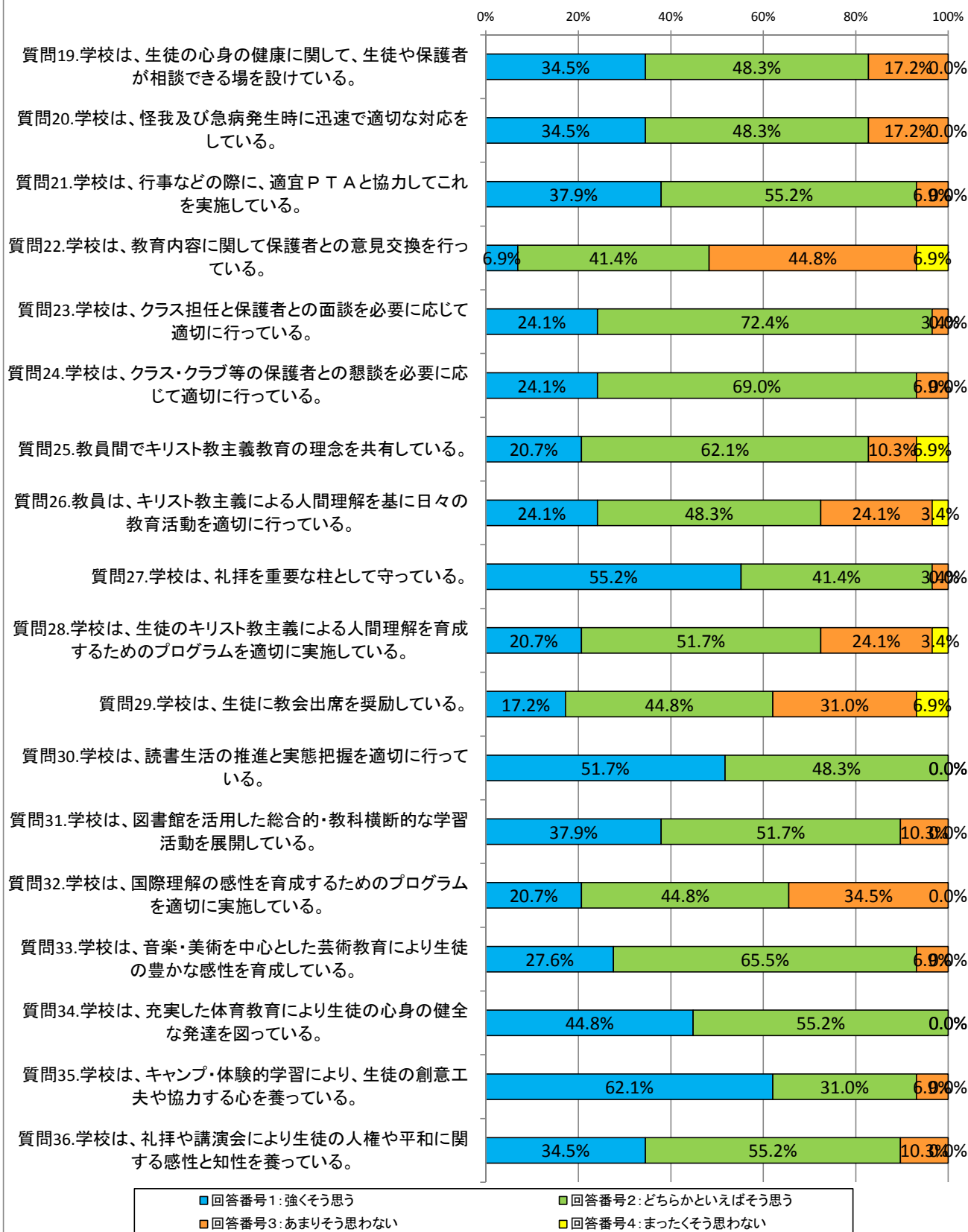
2013年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
特色ある教育の 実践	(1) 読書・図書館教育	読書生活の推進と実態把握	30. 学校は、読書生活の推進と実態把握を適切に行っている。	20. 学校は、生徒に読書生活を推進している。	19. 学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。  20. 読書に関するプログラムが充実している。
		図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開	31. 学校は、図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している。	21. 学校は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している。	
		読書・図書館教育に特化した学校行事の実施			
	(2) 英語・国際理解教育	英語教育を通しての、世界への視野の拡大		22. 学校は、生徒が英語に触れる機会を増やし、英語が好きになる学習活動を展開している。	21. 将来、英語を使って世界の人々と交流してみたいと思う。
		英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成		23. 学校は、英語の文法学習に併せ、読む・書く・聞く・話す、の4技能を高める学習活動を展開している。	22. 英単語や英文法が身につき、読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができています。
		国際理解の感性育成のためのプログラムの実施	32. 学校は、国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している。	24. 学校は、海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解の育成に努めている。	23. 海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味を持った。
	(3) 芸術教育	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成	33. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。	25. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。	24. 音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。
		音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成			
	(4) 体育教育	充実した体育教育による児童生徒の心身の健全な発達	34. 学校は、充実した体育教育により生徒の心身の健全な発達を図っている。	26. 学校は、体育教育などにより生徒の心身の健全な発達を促している。	25. 体育の授業などにより心身が鍛えられている。
	(5) キャンプ・体験的学習	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施	35. 学校は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。	27. 学校は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。	26. キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。
	(6) 人権・平和教育	礼拝や講演会を通じた人権や平和に関する感性と知性の涵養	36. 学校は、礼拝や講演会により生徒の人権や平和に関する感性と知性を養っている。	28. 学校は、人権や平和に関する生徒の感性と知性を育成している。	27. 学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い。

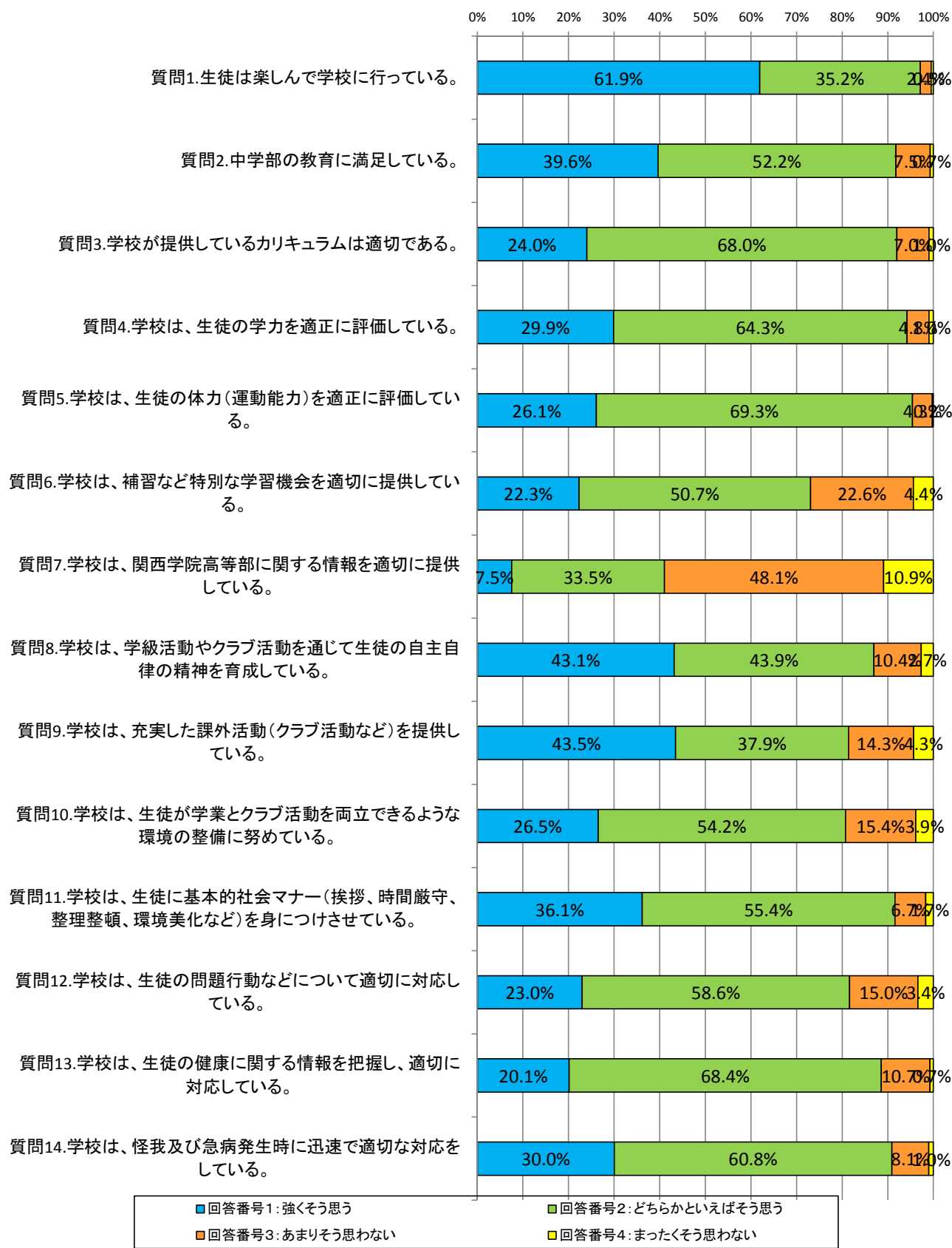
2013年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・教員 質問1～18)



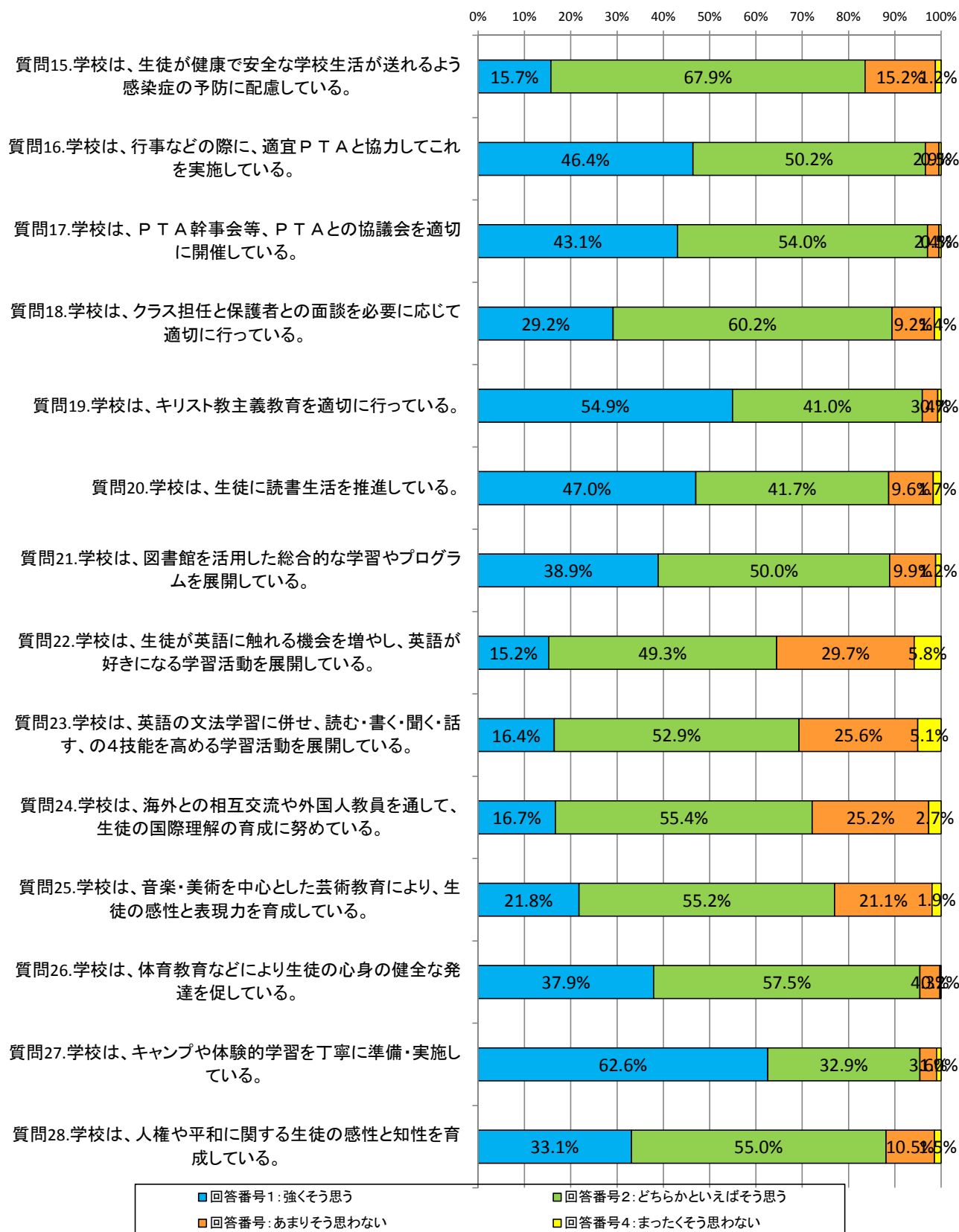
2013年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・教員 質問19～36)



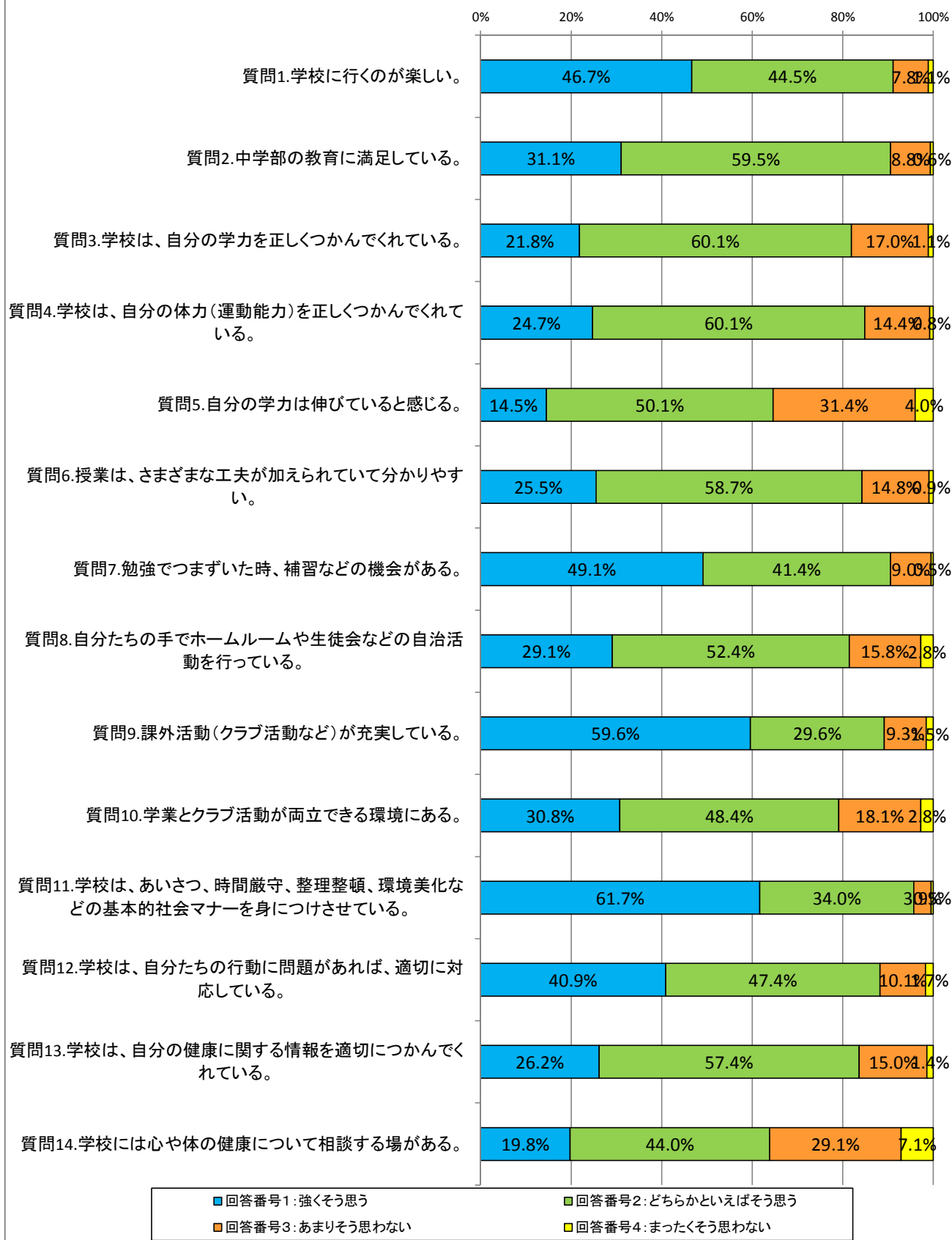
2013年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・保護者 質問1～14)



2013年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・保護者 質問15～28)



2013年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・生徒 質問1～14)



2013年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・生徒 質問15～27)

